

JFIA の J-STAGE 登載について

JFIA 編集委員(編集幹事)

九州大学大学院工学研究院 石松 亮一

2018 年 5 月現在、フローインジェクション分析研究懇談会 (JAFIA) のウェブサイトでは、創刊号から最新号までの Journal of Flow Injection Analysis (JFIA)誌に掲載されたほとんどの記事が、国内外から無料で閲覧できるようになっている。JFIA 誌は 1984 年の 6 月に第 1 巻 1 号(Vol. 1, No. 1)が発行され、以降、毎年 6 月号と 12 月号の計 2 号が現在まで刊行されており、最新号は 2017 年 12 月号の Vol. 34, No. 2 である。2019 年には、創刊 35 周年を迎える予定である。この間、FIA に関する研究論文、総説などに加え、指標、トピックス、学会参加報告などの記事を掲載し続け、JFIA 誌は FIA に関する総合雑誌のような位置づけであると個人的に理解している。

日本国内の会員を中心とした学術誌であるが、1986 年発行の Vol. 3, No. 1 にて、”THE GROWTH OF PUBLISHED PAPERS ON FLOW INJECTION ANALYSIS”というタイトルの指標が、E. Hansen 教授と J. Ruzicka 教授によって寄稿されており、創刊当初から外国の読者を意識していることがうかがわれる。1980 年代では著者のほとんどが日本人であったが、1990 年代ころから外国人著者による英語の研究論文や記事が増えてきており、現在では、日本人、外国人著者による英語の研究論文、記事の割合がかなり高くなっている。筆者は、2012 年から 2017 年度まで事務局を担当したが、その間の長岡勉前編集委員長や田中秀治現編集委員長が大変な労力を払い、記事を国内外から集めているのを目の当たりにしてきた。インターネットや e-mail が普及していなかったさらに以前の時代に外国から記事を集める苦労は大変なものであったことは想像に難くない。

先人や現在の委員が多なる苦労と労力を費やした甲斐あっての JFIA 誌ではあるが、他の分析化学系の学術誌に比べて知名度が低いのは否めない。自身が手間暇かけて執筆した学術論文は、なるべく知名度の高い雑誌に投稿したいと思うのは当然のことであり、インターネットが発達した現在、雑誌の知名度やランキング等、各雑誌の情報はすぐに手に入る状態である。こうなると、有名な雑誌に論文が過剰に集まり、そうでない雑誌には掲載数に到達しないという循環（それぞれポジティブな、ネガティブなフィードバック）が起ってくる。論文の投稿数のさらなる低下を危惧した長岡前編集委員長は、JFIA 誌の価値を高めることによる論文投稿数の増加を目的とし、JFIA Selection Award を 2014 年度に新設し、優れた論文にこの賞を授与

することになった。その後、JFIA 誌のさらなる存在感向上を目的として、編集委員より、J-STAGE への登載が発案された。

J-STAGE は、Japan Science and Technology Information Aggregator, Electronic の頭文字をとったもので、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が運営、管理している。J-STAGE 登載に関する説明会で配布された資料によると、サービスの目的は「...電子化された科学技術刊行物の国内及び国際的流通を促進するとともに、...」とある。2018 年 5 月 16 日現在、J-STAGE には 2628 の雑誌が登録され、450 万以上の論文や記事が閲覧できる状態にある。

2016 年度より就任した田中編集委員長は、J-STAGE 登載に向けてご尽力くださり、申請に必要な書類をご準備下さった。当時の JAFIA 事務局担当であった筆者が 2016 年の 11 月にそれらの書類を提出すると、2017 年 2 月に JST より「登載誌として採択されたと」の連絡が入った。ただし、JST も登載数の増加を目指しているようで、毎年かなりの数の雑誌を新規登載しているらしく、「JFIA の登載は 2018 年度以降」との追記があった。その後、登載時期がやや早まり、2017 年度末に可との連絡があった。登載に必要な ID とパスワードは、東京で開催される説明会に参加した後に発行されるということで、筆者は 2018 年 2 月に JST 東京本部別館で開催された説明会に参加し、その後、3 月に J-STAGE 登載の ID ならびにパスワードが発行された。

J-STAGE に記事を登載する方法は Web 登載と XML 登載の 2 通りがある。Web 登載では、著者の氏名、アブストラクト、ページ数等を入力し、あらかじめ作成した pdf ファイルをアップロードする。XML 登載では、XML 作成ツールを用いて、記事を XML 形式で作成する必要がある。JFIA 誌では、印刷段階で記事の pdf ファイルを作成しているので、Web 登載システムを利用して記事の登載を行っている。J-STAGE に登載された記事は、Japan Link Center より記事毎の Digital Object Identifier (DOI)が自動的に付与される。DOI はデジタルオブジェクトに付与される永続的な識別子で、DOI の付与により、サーバー移転によるリンク切れを防止し、恒久的なアクセスを保証する。また、登載によって Google Scholar, CiNii Article などの検索エンジンから検索した場合に容易にヒットするようになる。もし、タイトルやページ番号を誤って登録したり、誤った記事(内容を含む)を公開したりした場合、修正が必要になるが、記事

の差し替えを行う場合は、JFIA 誌に誤植訂正や訂正記事を掲載しなければならない。また、訂正履歴が残る。

現在、JFIA 誌の J-STAGE 登載を、最新号から過去に遡りつつ少しずつ進めている。2018 年 5 月 16 日現在、第 33 と 34 巻の 1 および 2 号と、第 32 巻の 1 号が J-STAGE で閲覧可能である（以下のリンクを参照）。

(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jfia/-char/ja>)

雑誌毎の月間アクセス数ランキングが集計、表示されているので、気になる記事はチェックして頂きたい。今後も少しずつではあるが、過去の記事を登載していく予定である。

これまでに、JFIA 誌に掲載されたほとんどの記事が JAFIA のウェブサイトを通して国内外にオープンアクセスで公開されており、JFIA 誌はすでに「開かれた」状態ではあるが、公開されている記事等を Google などの検索エンジンで検索しても上位にヒットしなかった。しかしながら J-STAGE に登載することによって上位にヒットするようになっており、これによって JFIA 誌の知名度が上がり、国内外からの論文の投稿数が増えることを期待している。

最後になりましたが、J-STAGE 登載にご尽力、ご協力いただきました編集委員長、編集委員の皆様、並びにその他の関係者の方々に御礼を申し上げます。ご自身の論文が早期に J-STAGE へ登載されることを望んでいらっしゃる方も多いと思いますが、もうしばらくお待ちいただけると幸いです。